

奈良女子高等師範学校・奈良女子大学同窓会

第46号

発行者

佐保会兵庫県支部

佐保会兵庫県支部だより



山本 泉 (H21人環博)

(右) 「白鳥の城」

キルト作品 (2.5m×2m)

(上) 作品展示風景

アートキルトミュージアム2015「世界さんぽ」

主催：中部国際空港株式会社

※山本さんの研究ノートをP8～9に掲載しています

近況

中島 悦子(S34文地)

私が奈女大文学部地理学科を卒業したのは昭和三十四年、すでに六十人以上が過ぎましたが、今頃になって学生時代のことをいろいろ思い出させることができました。

地理学科には、「明日香」という同窓会があり、毎年総会と会誌の発行を続けているのですが、その会誌が今年で五十号という節目を迎えたので、記念号を作ることになりました。そのため編集委員から写真の提供の呼びかけがあり、私も学生時代の写真や子供連れで出席した「明日香」の総会の写真などを送りました。先月その五十号が送られてきました。資金の関係で、相変わらず質素な出来上がりですが、とても充実した内容のある記念誌が出来ました。

また、私が入学してすぐに、高校の先輩(史学科三回生)が或る庭園見学に誘ってくださいました。それは、国立奈良文化財研究所建造物研究室長の森蘊(もりおさむ)先生が案内して下さるもので、奈女大の卒業生や在校生十数人の集まりでした。森先生は知る人ぞ知る日本庭園史研究の大家(特に平安時代)で、桂離宮や修学院離宮などどこでも先生と一緒にフリーパス。先生との交流は卒業後もずっと続きました。

一昨年の夏、平城宮跡資料館で、「奈良を測る 森蘊の庭園研究と作庭」の展示があり、奈良文化財研究所の高橋千奈津氏から案内をいただいたので、仲間四人で参観しました。その際に、森先生の論文の研究をしておられる京産大のマレス・エマニユエル先生にお会いし、森先生の思い出を書くことを勧められました。私たちには「今更…」という気もあつたのですが、学生時代からの記憶を何とか手繰り寄せ、拙い文をつづりました。昨年末に「『庭ひとすじ』の人々 森蘊先生の思い出」が上梓の運びとなりました。

八十歳代半ばにもなると、心身の衰えは如何ともしがたいですが、自治会のラジオ体操に参加したり、二〇〇五年に豊岡で放鳥されたコウノトリたちのその後のニュースを楽しんだりしています。

令和四年度 佐保会兵庫県支部総会

令和四年六月四日(土) ホテルクラウンパレス神戸

令和四年六月四日(土)、令和四年度佐保会兵庫県支部総会が、三年ぶりにホテルクラウンパレスで開催されました。新型コロナウイルス感染症拡大防止対策を徹底したうえで、対面開催に三十五名のご出席をいただきました。

会は、この一年にご逝去された方々への黙祷から始まりました。門脇支部長の挨拶の後、議事に移り、すべての議案が承認されました。

次に、お祝いが行われました。今年度は卒寿のお慶びは七名、卒業後五五年のお慶びは二十二名の方が対象であり、卒業後五五年の柳瀬様、酒居様、瑞宝双光章叙勲の正岡様が出席され、三名の皆様からお言葉を頂戴し、ご一緒にお祝いすることができました。

今年の特別企画第一部は、奈良女子大学学長の今岡春樹氏による「大学の現状について」第二部は義太夫節三味線奏者の鶴澤友球氏による演奏でした。最後に女高師校歌を斉唱し、支部総会は無事終了しました。

ご出席くださった会員の皆様方の、



卒業後55年の酒居様(左)と柳瀬様(右)



瑞宝双光章 叙勲の正岡様

- ◆ 令和5年度支部総会ご案内 ◆
- 日時:令和5年6月3日(土)
- 会場:ホテルクラウンパレス神戸
- 講演:黒川伊保子さん
- ～ 皆様、ぜひご参加ください ～

卒寿のお慶び (昭和28年卒業)

岩城 圭子	様	(理化)
松浪 美年子	様	(文地)
赤川 範子	様	(理家食)
矢島 泰子	様	(理家植)
佐久間 かず子	様	(文国)
野島 恵美子	様	(理数)
植村 彰子	様	(理物)

卒業後55年のお慶び (昭和42年卒業)

本郷 良子	様	(文幼)
柳瀬 あや子	様	(文国)
丸谷 宣子	様	(家食)
大野 晴江	様	(文幼)
寺嶋 龍子	様	(文教)
中川 和子	様	(文史)
鈴木 美根子	様	(家食)
酒居 淑子	様	(家住)
野村 晴恵	様	(理化)
青山 宏子	様	(理化)
小林 由美子	様	(文英)
吉田 由紀子	様	(文教)
射延 瑞枝	様	(家被)
岸本 律子	様	(家食)
小山 康子	様	(家住)
山本 雅代	様	(理化)
日下 綾子	様	(理数)
中西 厚子	様	(文英)
鬼十 由紀子	様	(理化)
由井 弥生	様	(家被)
水上 博子	様	(文国)
生田 貞子	様	(文体)

叙勲のお慶び

瑞宝双光章 正岡 康子	様	(S49 文教)
-------------	---	----------

総会次第

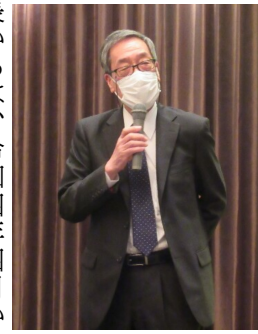
- 物故者に対し黙祷
- 一 開会のことば
- 二 支部長あいさつ
- 三 新入会員紹介
- 四 議長選出
- 五 議事
 - ①令和3年度 事業報告
 - ②令和3年度 収支決算報告および会計監査
 - ③令和4年度 役員承認および紹介
 - ④令和4年度 事業計画(案)
 - ⑤令和4年度 収支予算(案)
 - ⑥その他
- 六 記念品贈呈
- 卒寿のお祝い(昭和二八年卒)
- 卒業後五五年のお祝い(昭和四二年卒)
- 叙勲のお祝い(正岡康子氏)
- 七 報告
 - ①一般社団法人佐保会および奈良女子大学同窓会佐保会
 - ②その他
- 八 特別企画
 - 第I部 大学の現状について
 - お話 奈良女子大学 学長 今岡 春樹氏
 - 第II部 浄瑠璃ライブ
 - 義太夫節三味線 鶴澤 友球氏
 - 奈良女子高等師範学校校歌 斉唱
- 十 閉会のことば

特別企画 第一部

大学の現状について

奈良女子大学学長

今岡 春樹氏



今岡学長からは、令和四年四月からの変革についてお話がありました。

まず、法人統合です。国立大学法人奈良国立大学機構をつくり、その傘下に奈良女子大学と奈良教育大学が入りました。新しい法人は阪急阪神ホールディングスのようなもので、本学の名称も奈良女子大学のままです。

学長は、奈良の地を「石を投げれば博士に当たる」ところにしたいと言われました。具体的には、この法人統合は、奈良カレッジズと呼ぶ新しいタイプの高等教育を目指しています。国立では、奈良国立博物館、奈良文化財研究所、奈良先端科学技術大学院大学、奈良工業高等専門学校、その他民間企業やその研究所などでタッグを組んでいます。

次に、女子大学として、全国初の工学部の設置です。入学定員四十五名、三年次編入学十名ですので、四回生ま

で揃うと二百名規模になります。通常、工学部における女子学生比率は十パーセント程度なので、二千名規模の大きな工学部ができたことに匹敵すると言われました。

ただし、工学部の立ち上げには、教育のための人材・設備が必要でその経費は莫大です。そのため、先述した奈良カレッジズの皆さんから、講義や施設などの多大な協力をいただいているということ。その一例として、奈良を創業の地とし、世界屈指の工作機械メーカーであるDMG森精機株式会社と包括協定を締結し、専門科目への講師派遣や、カリキュラムの考案、実習での工場使用、工学部棟のネーミングライツなどの支援を受けていることをご説明いただきました。

学長のお話をお聞きして、奈良の地で、大学や企業などが連携して、女性研究者や技術者教育を加速し、工学系人材の多様性と技術力の底上げに貢献する素晴らしい取り組みだと思えました。さらに、日本のジェンダーギャップ解消が叫ばれるなか、母校が、工学系女性の活躍の拠点になっていることに、心が躍り、誇らしい気持ちになりました。

もっとお聞きしたいという会場の雰囲気の中、名残を惜しみながらの終了となりました。

特別企画 第二部

義太夫節三味線

鶴澤 友球氏



鶴澤友球さんは、滋賀大学のご出身で、ピアノの勉強をされていましたが、大学時代の恩師に「音楽は五線譜だけではない、あなたの地元淡路には、素晴らしい音楽がある」と言われたことをきっかけに、音楽教育学の視点から淡路人形浄瑠璃の伝承に関する研究を始め、義太夫節に傾倒されました。

その後、人間国宝鶴澤友路師匠に弟子入りし、入門から三年の平成十五年に芸名を拝名。以降、公演、後進の指導と幅広く活躍されています。



今回は、奈良女ということをお考え下さり、奈良の地が舞台の「壺坂観音霊験記 山の段」を選び、迫力ある弾き語りをご披露くださいました。用いた三味線は、「太棹(ふとざお)」と呼ばれるもので、普通の三味線より形が大きく、弦が太いため、音は低く大きく響き、その音色に魅了されました。途中、語りの体験指導を行なわれ、参加者二名が果敢に挑戦しました。わかりやすく詳しい解説と共に、登場人物の心情や状況を力強く多彩に表現される演奏に、深く感銘を受けた貴重な時間でした。

令和4年度新入会員の皆様 25名

卒業学部	氏名	地区
文文	溝口 萌	加古川市
文欧米	廣岡 季陽里	芦屋市
理科数	江口 由佳梨	灘区
理科物	波多 美咲	加古川市
理科連	中野 沙耶	西区
理化化	下村 澄愛	伊丹市
理化化	村上 紗月	宝塚市
理化生	大江 清夏	東灘区
理化生	笹田 萌未	東灘区
理化生	土井 かおる	姫路市
生環食	高島 捺希	東灘区
生環食	西川 知子	奈良市
生環食	松久保 来奈	三田市
生環心健	庄司 紗耶香	西区
生環心琳	廣瀬 瑠華	灘区
生環情通	中村 あいか	西宮市
生環住	神崎 真歩	高砂市
生環住	杉原 花奈	芦屋市
生環住	宮下 佳奈	宝塚市
生環住	山下 華実	姫路市
生環住	茶島 菜々子	中央区
生環文	池田 香穂	加古郡福美町
生環文	鶴飼 萌黄	東灘区
生環文	小寺 佑季	明石市
生環文	細井 清花	須磨区

ご挨拶

支部長

門脇千里 (S53家食)



佐保会兵庫県支部の皆さまには、日頃より本会の活動にご理解とご協力をいただき、厚くお礼申し上げます。

新型コロナウイルス感染症禍も三年が過ぎました。ウィズコロナ生活にもようやく慣れてきましたが、一日も早くアフターコロナと呼べる日常がもどってくることを願っています。

二年間、中止や延期の続いていた支部活動も、令和四年度は、ほぼすべての活動を対面で実施することができました。総会、地区リーダー会、睦会、そして樅の会、ITサロンに参加していただいた皆さまが、再会を喜び合い、「楽しかった」と口々に話される姿がありました。

また、近畿二府三県が順に本部と共催する佐保塾史跡めぐりを十一月十一日に開催しました。四十八名の参加を得て、秋晴れのもと、ガイドさんに神戸旧居留地を案内してもらいました。後日、県外から参加されたS四七年卒の方から「・・・昼食

では、十三年先輩のお二人と同席でき、美しく、お元気なご様子にこれから先の希望を見ることができました。改めて佐保会の良さを感じました。・・・」とメールがありました。

脳裏に残る奈良の原風景は、大学の正門や記念館、教室や寮であったり、人気のない奈良公園であったり、人によりさまざまでしょう。しかし、それらは、かつて同じキャンパスで学んだ佐保会員には今も脈々と続く奈良の原風景です。それらを共有する同窓生が、顔を合せて話をし、お互いに思いを寄せあうことのできるありがたさをこのコロナ禍のなかでしみじみと噛みしめました。

令和五年度も総会を始めさまざまな支部活動を計画しております。同じキャンパスで学んだ多くの会員の皆さまに参加していただき、お会いできますことを楽しみにしております。



令和3 (2021) 年度事業報告

- 3年6月12日 (土) 支部総会 (書面による)
- 8月22日 (日) 第27回地区リーダー会 (中止)
地区名簿、もより会補助金、アンケート結果等を地区リーダーへ送付
- 10月26日 (火) 第45回睦会 (令和4年に延期)
- 4年2月 1日 (火) 「支部だより」第45号発行 (神戸市北区担当)
- 2月25日 (金) 『佐保会報』『Today』『支部だより』等全会員に発送 (1222通)
- 3月 5日 (金) 「支部だより」引き継ぎ会 (神戸市北区→神戸市須磨区)
- 3月26日 (土) 会計監査

令和4 (2022) 年度事業計画

- 4年6月 4日 (土) 支部総会 (ホテルクラウンパレス神戸)
- 8月27日 (土) 第27回地区リーダー会 (ウィズあかし)
- 10月20日 (木) 第45回睦会 (楠公会館) (昭和52年卒業者担当)
- 11月11日 (金) 佐保塾史跡めぐり (神戸旧居留地)
- 5年2月 1日 (水) 「支部だより」第46号発行 (神戸市須磨区担当)
- 2月25日 (土) 『佐保会報』『Today』『支部だより』等全会員に発送
「支部だより」引き継ぎ会 (神戸市須磨区→神戸市垂水区)
- 3月25日 (土) 会計監査

＜参考＞ 令和5 (2023) 年度について

- (1) 「支部だより」第47号、編集は神戸市垂水区の担当
- (2) 「第46回睦会」のお知らせ(昭和53年卒業者の担当)

日時：令和5年10月19日 (木) 11:30～ 場所：楠公会館 ※案内は9月頃に送付します。

～ 哀 悼 ～

河手二三子様(S19家) 2021.11.25没 三上 孝子様(S50家被)2022.2.27没 山口貴美子様(S33家被) 2022. 8.19没
 小川 澄子様(S20理) 2021.11 没 前川 節子様(S33家被)2022.6.17没 吉江 順子様(S35文社) 2021.10.25没
 橋本 智子様(S29理化)2021. 5.15没 小林 睦子様(S33家食) 没日不明 木村 綾子様(S22文) 2021.4. 8 没
 津田 豊子様(S29文社)2021. 8.11没 田中 昭子様(S21理家化)2022.5.13没 中西 博子様(S31文専英) 2021.12.24没
 堀田 千代様(S30文英)2021. 9.25没 森本 壽美様(S48理化)2022.9. 7没 田淵 一美様(S23臨家) 没日不明
 田藤 幸子様(S31家食)2021. 8.14没 小山 章子様(S33理化)2022.8.23没

令和3年度 収支決算・令和4年度 収支予算

収入の部 (円)		
科目名	令和3年度決算	令和4年度予算
前年度繰越	3,700,293	3,873,792
支部会費(A)	470,000	470,000
貯金利息(B)	2	2
本部より補助(C)	138,950	138,950
雑収入(D)	0	0
寄付(E)	169,500	0
ABCDE小計	778,452	608,952
合計	4,478,745	4,482,744

支出の部 (円)		
科目名	令和3年度決算	令和4年度予算
総会補助費	12,012	50,000
通信費	17,738	20,000
印刷費	1,664	10,000
交通費	22,020	50,000
支部だより等発送費	254,914	260,000
事業費		
支部だより作成費	64,163	70,000
睦会補助	0	70,000
株の会補助	1,000	1,000
ホームページ研究会	25,000	25,000
地区リーダー会	6,630	50,000
もより会補助	110,038	182,792
慶弔費	69,866	80,000
事務費	19,908	40,000
予備費(佐保塾担当当年次のみ)	0	10,000
小計	604,953	918,792
次年度繰越	3,873,792	3,563,952
合計	4,478,745	4,482,744

資産内訳	
定額郵便貯金	2,550,000
振替貯金	1,307,702
通常貯金	16,090
合計	3,873,792

預り金 (円)		
科目名	令和3年度決算	令和4年度予算
本部会費	337,500	337,500

～ご寄付のお願い～
 今年度もご寄付をいただきまして有難うございました。
 支部活動の一層の活性化の為に使わせていただきます。
 引き続きご支援をよろしくお願ひいたします。

令和4年度 佐保会兵庫県支部役員・各委員等

役職名	氏名	卒業年学部	地区
支部長	門脇 千里	S53家食	加東市
副支部長	桑名 好恵	S50家食	神戸市西区
庶務	末田 香里	S45家食・S47家修食	明石市
	谷本 彰子	S49文英	神崎郡副崎町
	八百 美知子	S52理生・S54理修生	神戸市垂水区
	山本 三和子	S55理化	たつの市
	永田 ひろみ	S57文教	神戸市中央区
	西山 衣里子	H14生環アバ・H16博前人	神戸市中央区
会計監査	柳瀬 あや子	S42文国	神戸市東灘区
	高階 時子	S48文国	加東市
「株の会」運営委員 (○代表)	○末田 香里	S45家食・S47家修食	明石市
	片寄 眞木子	S36家食	尼崎市
	岩崎 雅美	S44家被	明石市
	乙武 ヨシミ	S44理生	明石市
	永田 ひろみ	S57文教	神戸市中央区
	齋藤 真喜子	S58理数	三田市
ホームページ研究会運営委員 (○代表)	○丸岡 玲子	S53理数	明石市
	永福 より子	S44家住	神戸市北区
	乙武 ヨシミ	S44理生	明石市
	富山 和子	S53家住	たつの市
	山本 三和子	S55理化	たつの市
	山田 元美	S57理数	たつの市
西山 衣里子	H14生環アバ・H16博前人	神戸市中央区	
理事	末田 香里	S45家食・S47家修食	明石市
	谷本 彰子	S49文英	神崎郡副崎町
一般社団法人佐保会 代議員	柳瀬 あや子	S42文国	神戸市東灘区
	岩崎 雅美	S44家被	明石市
	永福 より子	S44家住	神戸市北区
	高階 時子	S48文国	加東市
	桑名 好恵	S50家食	神戸市西区
	八百 美知子	S52理生・S54理修生	神戸市垂水区
	門脇 千里	S53家食	加東市
	丸岡 玲子	S53理数	明石市
	山本 三和子	S55理化	たつの市
	永田 ひろみ	S57文教	神戸市中央区
星野 美佳	S61家生	神戸市須磨区	
西山 衣里子	H14生環アバ・H16博前人	神戸市中央区	

一般社団法人佐保会の理事、代議員の任期は、R4.9総会後からR6.9総会まで

特集 家庭科教育の移り変わり

令和四年の春、高校の家庭科の授業で「金融教育が始まる」「投資について学習する」など、ニュースで騒がれました。また四月から改正民法が施行され「十八歳成年」となり、「契約時の注意喚起」と共にこのことは話題になりました。家庭科という教科ほど、その時代の社会的要請を受けて変化してきた教科はないのではないでしょうか。

そこで家庭科の学習指導要領の変遷と、社会の変化を図で表しました。学習指導要領とは、全国どの学校でも一定の水準が保てるように文部科学省が定めている基準です。およそ十年に一度改訂され、教科書や時間割はこれを基に作られています。

新制高等学校となった後、昭和二三年の学習指導要領では、実業科の「家庭」だった教科が一九六〇年代の高度経済成長期に独立し、女子のみの必修科目ができました。このとき「男は仕事、女は家庭」という性別役割分業に基づく家族像が一般的とされました。「男女平等」の流れを受けて、平成六年から家庭科4単位が男女共に必修となり、現在43歳以下の男性は高等学校で家庭科を学習していることとなります。「イクメン」という言葉も生まれ、父親の育児が注目されました。

パソコンの普及から「家庭情報処理」という科目が家庭科の中に入り、情報科が新たにできて

高度経済成長

大量生産・大量消費の歪みが表明化

1960年(昭和35年)改訂
「家庭一般」原則4単位
女子のみ必修

昭和38年実施

高等学校学習指導要領の改訂にみる
家庭科必修科目と内容の変遷

食品偽装・地球温暖化が問題化

1970年(昭和45年)改訂
「家庭一般」4単位
女子のみ必修

昭和48年実施

1970年
高齢化率7%に

情報化・サービス化・国際化へ加速

1978年(昭和53年)改訂
「家庭一般」4単位 女子のみ必修

昭和57年実施



1985年
女子差別撤廃条約 批准

1986年
男女雇用機会均等法 施行

1989年(平成元年)改訂

「家庭一般」4単位 1科目選択
「生活技術」他4単位 男女必修

平成6年実施

1990年
1.57ショック

1995年阪神淡路大震災
高齢化率14%に

販売方法が多様化し悪質商法が問題に

1999年(平成11年)改訂
「家庭基礎」2単位 1科目選択
「家庭総合」他4単位 男女必修

平成15年実施

2000年
介護保険制度 開始

2000年
児童虐待防止法 施行

低金利時代

2009年(平成21年)改訂
「家庭基礎」2単位 1科目選択
「家庭総合」他4単位 男女必修

平成25年実施

2005年
食育基本法 施行

2007年
高齢化率21%に

2009年
消費者庁創設

SDGsをめざして

2018年(平成30年)改訂
「家庭基礎」2単位 1科目選択
「家庭総合」4単位 男女必修

令和4年実施

2018年
民法 改正
2022年
18歳成年



家庭科教育への思い

岡本(北田) 京子 (H元家修生)

家庭科の男女共修が始まることが決まった平成元年、私は母校神戸女学院に家庭科教員として採用

留し、平成二一年の改訂で移行しました。さらに、急速な高齢化のため、「家庭一般」に「高齢者の生活と福祉」が登場し、福祉が学習内容に入りました。しかし、平成十一年公示の学習指導要領によって家庭科の必修単位が半分の2単位へ減ずる学校が増え、現在では主流となっています。

その一方で、教育内容は「食育」「消費者教育」「金融教育」「環境教育」などが重点化され、多岐にわたります。金融教育は、「経済」という概念的な内容ではなく、「お金を管理・運用」という主体的な実践的内容ということ、公民科より家庭科で行うとされました。限られた授業時間の中で、生徒の興味関心が湧き、効果的な指導となるように工夫しなければなりません。県立高校でも、令和四年度入学生から全員タブレットを持って授業に臨んでいるため、「トーク&チョーク」の形態から進化しつつあります。

さらに、私立学校の教職経験をお持ちの方に「家庭科教育」についての思いを寄せていただきました。図・文責 中村 真理子 (S61家生)

されました。当時は「環境教育」が注目され始めた頃で、「ゴミの減量、分別の必要性、環境に配慮した生活」などを授業でも積極的に取り上げていました。その後、平成七年に阪神淡路大震災を経験し、住宅の安全、災害への備えなどの授業にも力を入れました。ただ、その後の学習指導要領の改訂で、本校では家庭総合4単位から家庭基礎2単位となったため、教える内容も以前よりは減らさざるをえないのが残念でなりません。

授業形態は、板書スタイルはもろろん、スライドやビデオなどの視聴覚教材を使い、特に実習の手順をあらかじめ家庭用ビデオカメラで撮って生徒に見せていた時期もありました。現在は、豊富なデータや実習の作業手順の説明には、教科書のQRコードを生徒が各自読み取ることで、繰り返し見ることが出来ます。便利になったなと感じます。

令和四年度の高校一年生より、家庭科で金融教育を扱うことになりました。その授業風景を報道するメディアが増えています。これまでの家庭科教育で全く扱わなかった分野ではありません。ただ、ISAやIdeo等の違いを教えることも大事ですが、自分が将来に向けて「いかに生きるか」、それに「備えるか」という視点がなければ単なるマネー講座に終わってしまいます。家庭科で教える内容は時代と共に変わっています。何でも手作りが必要な時代もありましたが、今は既製品を選択する力も大切です。またその選択が日本に限らず国際社会にどう影響を与えるのか想像する力も育てなければなりません。

将来どのような人生を歩むとも、日々の「生活」はついて回ります。生活者ひとり一人の消費行動が社会を動かしている、ということに折り触れて伝えていきます。今の時代、スマホさえあれば何も怖いものはない、どこでも生きていける、くらいに思っている子どもたちは少なからずいます。しかし、人は一人では生きていけないこと、家族のみならず、他者との関わりを積極的に持ち、大事にしていかなければいけないことなど哲学的な話もします。人の一生の営みすべてに関わる教科、それが「家庭科」です。その魅力を生徒に伝えたい、と日々努力しています。

男子校の家庭科教育

布村 沢子 (S61家生)

今から十五年前、当時家庭科未履修問題で揺れていた中高一貫の男子校である灘校に非常勤講師として勤務する事になったのは大学時代の友人の紹介からでした。

夫の海外駐在に伴い公立高校教諭を退職、帰国後に通信制高校で講師として勤務、普通科で授業するのは十数年ぶり。最初は不安と戸惑いの連続でした。さらに当時は突然始まった家庭科の授業に反発する生徒達も多く、クラス五十五名の男子高生を相手に毎回必死だった事を覚えています。

そこから昨年退職するまで「男子校での家庭科教育」に携わり男子校ならではの様々な経験をすることになりました。

灘校では高一に加え中一の家庭科も担当し週二回の勤務となりましたが、企業とのコラボ実習や外部講師を招いての講演、家庭科室がないため休業日に食堂を借りて行う調理実習など特別授業が多く調整や準備が大変でした。

授業はプリント中心でワークや実習も出来るだけ取り入れ、高校卒業後に一人暮らしを始める生徒達が少しでも生活面で自立出来るよう考えました。厳しい入試を突破して来た生徒達は非常に合理的で時間の使い方が上手く課題の処理能力も早い子が多かったためテンポ良く授業を進めるように心がけていました。

ただ大学受験と無関係な家庭科に対して関心も学ぶ意欲も低く「家庭科の面白さを伝えたい」と他科目との連携やプロジェクト型グループワークの導入など試行錯誤を重ねます。

その中で灘校の生徒同士で助け合う文化や各人の個人的な視点・鋭いものの捉え方など生徒から学ぶ事は多く貴重な経験でした。特に探究学習を通して彼らの好奇心の扉が開き変化の様子はとても印象深いものでした。

◆研究ノート◆

裁縫教育と

ハンドメイド活動の関係

武庫川女子大学生活環境学部教授

山本 泉 (H21人環博)



はじめに

昨今の日本はものにあふれ、さまざまなレベルの品質のものがそれぞれに妥当な価格で入手できる。そのような中でもハンドメイドの人気は衰えず、多くの人が手芸などのハンドメイド活動を行い、かつ、社会に向けて発信している。その活動を仕事であるか趣味であるかに関わらず「生涯活動」と位置つける時、その内容の充実度や選択肢の広がり、その人の人生において重要な要素となる。

他方、現在の文科省の学習指導要領には「生徒に生きる力をほぐしむくことを目指す」という方針が明記され、「生きる力」とは「知・徳・体のバランスのとれた力のこと」と記されている。それは、単に収入を得る能力や家事などの生活能力ではなく心豊かに生きていこうとする能力を意味すると解釈すると「生きがい」とも言える生涯活動を無視することはできず、その選択肢はどの児童・生徒にも平等に広く与えられるべきではないだろうか、と考えたことが、この研究の始まりだった。

これまで家庭科教育についての研究報告

は多数あり、衣生活関連の教育内容についても、過去からの変遷や今後の可能性に言及した研究報告や事例報告は数多い。しかしそれらは、生活に必要な衣生活の知識・技術という観点から論じられており、豊かな人間性を目指す生涯活動の観点から論じたものは少なく、その観点において本研究に新規性を見出せると考えた。

ハンドメイドの担い手

近年の日本では、全国各地の大型展示会場でハンドメイドに関連したイベントが開催されている。その多くは、手作りの商品を展示・販売する出展(店)者や関連業者のブースなどで構成される。特に大きなイベントとしてキルトフェスティバルなどのキルト展や、日本ホビーショーなどのハンドメイドイベントが挙げられる。これらのイベントはいずれもコロナ禍を経ても盛況で、今や関連業界の一大マーケットとなっている。それらの参加者の作品に見られる

年齢層による大きな違いは、製作に縫製作業を含むかどうか、という点である。キルト展の参加者の年齢層は六十代〜八十代ぐらいを中心としており、その作品は縫製を伴うキルトが中心である。これらの年代は、洋裁学校が隆盛期を迎えた頃に青春時代を送った年齢層を含んでおり、裁縫が生活の身近にあった時代を生きて来た人々であると言える。それと比較してハンドメイドイベントの参加者は十代〜四十代が中心で、すでに既製服が浸透し、生活の中から裁縫

が消え、ミシンすら無い家庭も少なくなっている。時代に生きている年齢層の人々を中心とされている。その作品はアクセサリーが圧倒的に多く、縫製作業を含まないことが多い。ハンドメイドの担い手の年齢層と作品の特徴に有意な相関が有ったとして、それは既製服産業の発展と共に家庭での裁縫の機会が減ったという時代背景の影響と捉えることもできるが、単に時代の流れと切り切るには違和感を覚えるような時代のズレがそこにはあった。

既製服産業の発展と裁縫教育

学校の家庭科における裁縫教育の内容や配分は時代と共に変化している。それは、

既製服産業の発展により家庭での裁縫の必要性が低くなったためであるが、短いスパンでその変化をたどってみると、既製服産業が発展した時期と、学校での裁縫教育の割合が減ってきた時期にはズレがある。衣服を購入して入手する時代になってからも、存外に長らく、家庭科において裁縫教育が行われた時代があったのである。その時代に児童・生徒であった人は、家庭裁縫が身近にあった時代を生きた人々と同程度に、布を縫製して何かを作ることへのハードル

が高くないと考える。逆に、学校で裁縫教育を受けたことが無ければ「衣服は人の手で作られるもの」という認識さえ持たないことも起こり得る。印象的な話として、大学の助手が教えてくれた次のような会話がある。裁縫実習の授業中に「みんなの

服もこんな風に誰かが縫製しているんだよ。」と言うと学生が「人が一つ一つ作っているとは知らなかった。服もお菓子みたいに工場の機械でポンってできるとか思っていた。」と語った、ということである。なんらかの裁縫教育を受けたことがあれば出てこない発想である。この世代の人々が、それでも何かを作り表現したいと思えば、アクセサリーなど縫製作業を含まない製作の方が親しみやすいのではないか。しかし、この世代で、ものづくりのセンスがあり、器用な製作者が縫製作業に手を出さないことは非常にもったいないことだ。

ハンドメイドの担い手インタビュー

そこで本研究では、裁縫教育の経験値の違いがその後のハンドメイド活動になんらかの影響を及ぼすという仮説を立て、ハンドメイド活動を趣味の域を越えた範囲で行っている人を中心にインタビューを行っている。今回は、そのうちの3名について紹介する。(次ページ 左上表)

インタビュー対象者と学習指導要領

三名の製作物の差が顕著であった中学校家庭科について、学習指導要領を確認する。

インタビュー対象者①

1958年告示の学習指導要領が適用された。科目名は「技術・家庭」となり、女子向き・男子向きと区別する記述がみられる。被服製作について洋裁・和裁を含む。その前の改訂は1956年発行と直近であり、製作物例を見ると洋裁・和裁ともに高い技術を必要

ハンドメイドの担い手インタビュー

	インタビュー対象者①	インタビュー対象者②	インタビュー対象者③
生年・職業	1953年 小1教室・ヨガ 主宰者	1964年 公立高校家庭科教員	1980年 アケビ-製作販売(副業)
過去に受けた裁縫教育	小学校 雑巾(手縫い)、刺しゅう 中学校 自分は覚えなし、同年代は浴衣を縫う 高校 パジャマ、衿無しジャケット、スカート	巾着(手縫い)、枕カバー(ミシン) ブラウス、パジャマ、スカート 裏地付きスカート	巾着、ナップザック エプロン、マスコット(クラブで) エプロンに刺しゅう
幼少期からの衣服の入手方法	小学生までは日常着も母の手作り。中学生では既製服を買う時代。百貨店で買ってもらった洋服が好きだったが、ある日全く同じ服を着た人に出くわし、既製服を着ると言うことはそういうことなんだと気づいた。	既製品が多かったが、小学校時代までの「よそいき」は、母の手作りもあった。母は、女学校で裁縫については一通り習っていたようである。	日常着は既製品だが、幼い頃はドレスなど母が作ってくれた。母は洋裁を専門的に学んだことは無いと思うが洋裁は好きで、型紙なども自分で作っていた。
自身のハンドメイド活動	自分の子供の服は幼少期はよく作っていた。サークルでパッチワークキルトを始め、講師の資格も取った。	家庭科での縫製の時間はかなり減っている。自分の子供の服は幼児までは作っていた。余り布で何ができるか考えるのも面白かった。	絵を描くのが好きだが自分よりうまい人はたくさんいるので、自分は布地と刺しゅうで表現することを思いついた。現在は手芸品をwebショップなどで販売している。
ものづくり全般に対する意識	心豊かな生活のために手間をかけることが楽しい。世の中で流行っているものは作ってみたいとも思う。食事は、今は作らなくても買える世の中になったが、自分で作りたい。	昨今では、料理も既製品が出回っているが、だいたいものは自分で作ることができると思うし、その方がおいしいと思う。	販売品を見て作ることができると思うことはあるが、買った方が安くきれいだと思えば作らない。衣服は自分で作れる気がしない。平面・直線のものは作れるが立体は無理に思える。

とする内容である。短期間で大きな改訂があったことから裁縫教育の過渡期であったと考えられ、教育現場でも教員によって内容の差が大きかったのかも知れない。被服製作の題材例は、ブラウス、スカート、ワンピース、パジャマ、ひとえ長着。

インタビュー対象者②

1969年告示の学習指導要領が適用された。科目名は「技術・家庭」であり、女子向き・男子向きと区別する記述がみられる。被服

1989年告示の学習指導要領が適用された。生活と被服との関係について理解させ、衣生活を快適にする能力を養う」との記述があるが、具体的な題材例は挙げられていない

製作については、和裁を含まなくなる。被服製作の題材例はブラウス、スカート、ワンピース、パジャマ。

インタビュー対象者③

1989年告示の学習指導要領が適用された。男女共修となり、被服全体の目標として「日常着及び簡単な手芸品の製作を通して、生活と被服との関係について理解させ、衣生活を快適にする能力を養う」との記述があるが、具体的な題材例は挙げられていない

い。男女共修で被服製作の題材を女性用衣に限定できなくなったからと考える。

対象者①の幼少期は既製服産業が飛躍的に発展する前の時期であり、減ったとは言え和服もまだ生活の中に存在したが、一般的な日常着であったとまでは言えないので、実際の衣生活と学校での裁縫教育に多少の乖離が見られる。

対象者②が中学生の頃には既製服が充分に発展しており、衣服は作るものではなく購入するものとなっていた。和服はすでに日常着ではなく、被服製作に和裁を含まないことは実生活と一致しているが、洋服に関しては実生活と学校での裁縫教育がかけ離れていると見える。学習指導要領は、時代による家庭生活の変化とニーズに合わせて変化していくが、実際の社会の変化を確実に見極めながら改訂されていくので、時間差が生じるのは当然のことかもしれない。

対象者③は、学習指導要領には被服製作の記載はあるが、実際には衣服と言えものの製作実習は減っており、これは既製服が完全に定着した実際の衣生活と一致している。また対象者③の「衣服は自分で作れる気がしない」という発言は、衣服製作を経験していないことに起因すると考えられ、裁縫教育と現在のハンドメイド活動との関連をうかがわせるものである。

おわりに…新たな被服製作モデル

時代が進み、家庭での衣生活と学習指導要領が移り変わり、家庭からも学校教育からも「衣服は人の手で作られるもの」という認識が得られにくい状況になってきていることが、インタビュー結果を比較することによりわかってきた。

「衣服は人の手で作られるもの」という認識ができるような裁縫教育とは、かつて家庭生活の中で必要とされた花嫁修業とも違い、職業訓練とも違う、新たな被服製作モデル(題材と手法)を必要とする。中学校の数学の目標には「数学的活動の楽しさや数学のよさを実感し」という一文が含まれるように、まずは「楽しさ」と「よさ」を実感することが学校教育の目的であっても良いのだ。被服製作には「型紙が難しい」「ミシンが使えない」「不器用だからできない」など「特別な人にしかできない」という固定観念があるようだ。「作ることができる」ことを理解するためであれば、題材は既製服や注文服のように仕上がりにこだわらなくても、また昨今の家庭用ミシンは初心者にも使いやすくてきており特別な才能は要しない。型紙製図は立体化の手法として図学に分類されるもので、別にアプローチの方法を検討する必要がある。過去の指導要領と教材を参考にしながらも過去の実績にはとらわれず、インタビュー調査を通して得た知見を活かし、現代の衣生活からかけ離れないことも考慮し「生きる力」を養うために適切な被服製作モデルを構築し提案することを本研究の目的として、これからも調査を進めていく。

会員からのおたより

佐保会と出会って

大橋 節子 (S41文英)

昨年、県支部より卒業五十五年のお祝を頂戴致しました。その美しい若狭塗のお箸で食事をする度、佐保会との半世紀の出来事が蘇ってきます。この五十余年、佐保会の先輩方とのご縁を通して過ごした歳月に感謝しています。

神戸市内の高校に勤め始めた頃、生徒指導に困っていました。運よく佐保会の先輩が隣で私に代わり問題の生徒に「ピシッと落着いた凛とした声で対応してくれました。そのあと和やかに生徒と向き合い話す先輩に教師としての姿勢を教えられました。日々の職場で色々な相談にも厳しくも温かい助言をもらいつつ教員生活が始まりました。次第に佐保会主催の色々な行事に誘ってもらい、樫の会の前身、佐保婦人学級では料理・手芸・古典講座・歴史探訪・音楽会と仕事以外の場での出会いは新鮮な喜びでした。佐保会の集まりで学ぶ立場に変わると不思議に気持は学生時代に戻りました。かつての勤務校付近を通るたび先輩の凛とした声が聞こえる気がします。

私は 母親、夫の介護のため定年を五年残し退職しました。現在、高齢者施設にいる百五歳の母親は 今朝のことは忘れても

昔のことはよく覚えているのに閉口します。かつての私との口喧嘩などリアルに再現します。月に二、三回は訪ねますが、いつも久しぶりの様子です。時には「私も二十代に戻ったり、またある時は「親切なお方」になります。そのまんま受け入れると母も穏やかに微笑みを湛えています。その後、この不思議を時の流れを楽しむことにしています。

そんな日々の中での楽しみは 日本一短い詩「俳句」です。きつかけは やはり、佐保会の先輩の誘いでした。面白そうと好奇心から初めて句会に参加してから彼これ二十五年たちます。仲間に農園を営む人や歴史に詳しい人達がいって四季折々の自然や伝統の催しに参加して行くうち、その魅力に取りつかれてしまいました。苦吟しつつも 自分の思いを表す言葉に出合う達成感が魅力かもしれません。たった一七文字ですが、どれだけ深い表現が出来るか試行錯誤しています。俳句が日々の日記となつて

何かも忘れし人と夕桜

(母と平等院を散歩)

ゆつたりとあばらを包む藍浴衣

(退院後の夫)

ボランティアしてよりの黙禱省の子

(無口な孫息子)

献花へと一歩踏み出す炎天下

(京アニフアンの孫娘)

今 思うこと

小管 広子 (S58文社)

大学卒業後、留学と出産育児休暇を除き一般企業のマーケティング関連の仕事に就いてましたが、四十七歳で外資系製薬会社を退職しました。数年の介護も含め夫と自分の両親を見送り終えた時、五十四歳になりました。翌年子どもが大学生になり、これから先の人生を有意義で楽しく過ごせるよう改めて考えました。

職業生活に意欲はありましたがブランクが長かったので某大学のブラッシュアップコースで学びパートで再就職する一方、趣味を再開したりかねてより興味があったラグビーワールドカップのボランティアに参加したりしながら還暦を迎える頃に方向性を定めたいと思いました。

しかしちょうど還暦の年にコロナ禍となり、それまでの考えを見直さざるを得なくなりました。またウクライナ戦争が始まり、これまで当然のようにとらえていた社会や考えは必ずしも常に保障されてるものではなく大変貴重なものであった事を実感しました。

コロナ禍はワクチンのおかげもありウィズコロナで日常を取り戻しつつあり、私も趣味のピアノとバレエを再開し、朝夕の犬の散歩やガーデニングで近隣の人との交流を楽しめるようになりました。マスク越しではありますが友人と対面で会うこともできるようになりました。

これからも予想だになかったような事がおこるかもしれませんが、そのような変化を心配しすぎる事なく様々な準備を怠らさずフレキシブルに対処できるように心身の自分でいたいと思います。

睦会報告

八百 美知子 (S52理生)

コロナ禍のために二年間中止となつておりました第四五回睦会を三年ぶりに開催することができました。令和四年十月二十日、秋晴れのもと二九名の皆さんが出席してくださいました。

門脇支部長の挨拶の後、サククス奏者の梶田勇氏によるミニコンサートを楽しんでいただきました。「音楽のタイムトラベル」と銘打つてのプログラムは、一九六〇年代のビートルズの軽快な曲から始まり、梶田氏の説明を交えながら各年代の曲を楽しむことができました。私たちの頭の中には、サククスの曲とともに若いころの思い出がよみがえり、梶田氏の「音楽と香りは記憶を呼び起こす」という言葉を実感すること



第22回佐保塾史跡めぐり ～神戸旧居留地散策～

令和4年11月11日(金)秋晴れのもと、佐保会と兵庫県支部との共催で佐保塾史跡めぐりを開催しました。

1都2府3県から参加のあった48名は4班に分かれ、タウンガイドKOBE24のガイドさんの案内でJR三ノ宮駅前を出発し、明治時代に生田川が埋め立てられてできたフラワーロードを通り東遊園地を経て旧居留地に行きました。

旧居留地は、1868年兵庫開港の際に、日本人と外国人との紛争を避けるため、開港場と外国人居留地は当時の市街地(兵庫津)からは3.5km東に離れた神戸村の、東は旧生田川、西は鯉川、北は西国街道、南は海岸という500m四方の地域に造成されたもので、格子状街路、公園、街灯、下水道等が整備され126区画に分割された街です。

建物の歴史や建築様式等の詳しい説明を受けながら建物を見上げると、壁面に意匠を凝らしたレリーフが施されていました。また、古い建物の外観を保存し中に高層ビルを建てて景観保存に力を入れている取り組みも目の当たりにしました。

旧神戸居留地十五番館は現存する唯一の居留地時代の建築物です。平成元年に国の重要文化財に指定されましたが、阪神・淡路大震災で全壊。その後、倒壊前の部材70%を使用して耐震構造で復元されました。散策の最後に十五番館内にあるレストランを貸し切りにして特別メニューの昼食をいただきながら親交を深めました。

これまで見過ごしていた事を、写真や古地図を交えた説明を聞くことによって、歴史や建築物への理解が深まった一日でした。

皆様も、ぜひ機会をつくってお出かけください。



ができました。最後はまたビートルズの「イエスタデイ」で締めくくられました。アンコール曲まで演奏していただき、三分間の予定が四五分間を超える熱演となり、ジャズの名曲を楽しみました。

次はお食事をゆつくりと楽しんでいただきました。コロナの感染予防対策として、各テーブルは四〜五名の少人数にしてもらいました。

い、卒業年度の近い方同士でテーブルを囲んでいただきました。食べるときは黙食で、話すときはマスクをしてと、お願いしました。が、久しぶりの会食でお話が弾んだようでした。あつという間に予定の時間が過ぎ、校歌斉唱のあと閉会となりました。コロナ禍の中、ご出席いただきました皆様方に深く感謝申し上げます。



ホームページ(HP)研究会(ITサロン)

S53理数 丸岡 玲子

支部会員の交流や活動にITが少しでも役立てばという思いで、ITサロンの運営と事務局や樫の会等からの情報発信のお手伝いをしています。

ITサロンは、コロナ禍で2年程開催ができませんでしたが、今年度はほぼ計画通り開催できています。支部だよりやHPに予定を載せていますが、その時の参加者からの質問や話題を元に、和気あいあいと緩い方向感で実施していますので、もし敷居が高いなと思っておられる方や、もっとパソコンやスマホを活用したいと思っておられる方がいらしたら、どうぞ気軽にご参加下さい。

メールアドレスを登録されている方には、支部からのメールマガジンでタイムリーな情報が届いていると思いますが、今後は会員からの意見や要望が簡単にネットから送れるような機能を工夫し、双方向のコミュニケーションも活性化できれば良いと考えています。

ITの発達と普及によって、私達の活動や人との繋がり、物理的・年齢・体力など様々な制約から解放されて行いう事が可能になってきました。佐保会は人的無形財産の宝庫だと思っていて、支部内だけでなく全世界/世代レベルで会員ネットワークが作れば、大きな力となって色々な課題解決に貢献できると考えています。その実現にITは必須且つ資するものだと思っています。

これからも色々と模索・チャレンジをしていきたいと思っておりますので、どうか皆様のご協力と忌憚りの無いご意見をお願い致します。

楳(ゆずりは)の会 令和5(2023)年度 行事予定

開催日	内容	講師(敬称略)	会場	時間	備考
2023年 4月27日(木)	失われた田舎暮らしを求めて	ペルー フレデリック (姫路北部在住フランス人)	ウイズあかし 学習室 703	13:30~15:00	参加費 300円
5月25日(木)	ガーデンテラス二木(バラ園)見学 「万葉の森」散策	二木 史子 ご夫妻	10:00 JR東加古川駅集合	10:00~14:30 JR土山駅解散	参加費2000円(昼食代とタクシー代を含む)先着20名に限定
6月22日(木)	旧満州の小さな足跡	中村 京子	ウイズあかし 学習室	13:30~15:00	参加費 300円
9月28日(木)	プラネタリウムと天文の科学	学芸員の説明 予定	明石市立天文科学館 12:45科学館1階集合	12:45~15:00 13:10 投影開始	観覧料700円(各自で購入) 65歳以上半額(保険証等を持参)
10月26日(木)	歴史散歩-ウナヒ乙女の地を歩く - 篇の宮から処女塚古墳まで	埴岡 真弓	10:00 JR六甲道改札口集合	10:00~15:30 阪神新在家駅解散	参加費1500円(昼食代を含む) 先着20名に限定
11月16日(木)	美術鑑賞	学芸員の説明 予定	美術館または博物館 決定後HPでお知らせ	13:00~15:00	入館料実費(各自で購入)
2024年 2月22日(木)	ITは、佐保会の活性化に資することができるのか?!	丸岡 玲子	ウイズあかし 学習室	13:30~15:00	参加費 300円

- 1) 会場は「ウイズあかし」(アスピア明石北館)7階学習室、明石駅から徒歩3分です。
- 2) すべて申し込みが必要です。開催月の初日から申し込みを受け付けます。
楳の会のEメール(yuzuriha@saho-hyogo.girlfriend.jp)又は末田の電話(078-939-4532)にご連絡ください。
- 3) 佐保会員以外の参加も歓迎します。
- 4) 年間行事の近々の予告や終了した行事の内容は「佐保会兵庫県支部」のホームページにUPしています。
運営委員:末田香里、片寄真木子、岩崎雅美、乙武ヨシミ、永田ひろみ

令和4年度 地区リーダー

(令和4年8月現在)

地区(会員数)	氏名	卒業年・学部学科等	地区(会員数)	氏名	卒業年・学部学科等	
神戸市	東灘区(113)	山田 宏子	阪神北 川西市、 (川辺郡)猪名川町(55) 三田市(49)	川田 多栄	S45家住	
		清水 陽子		藤原 淳子	S62家被	
	灘区(40)	上原 美由紀		明石市(55)	角野 敏子	S58理物
		正木 みどり			千代延 栄恵	S63家生
	中央区、兵庫区 長田区(63)	永田 ひろみ		加古川市、高砂市 (加古郡)播磨町、稲美町(56)	藤井 稚津子	S63文体
		渡部 晴美			岡野 亜希子	H04文英
	北区(49)	永福 より子		北播 西脇市、三木市、小野市、加西市 加東市、(多可郡)多可町(33)	川崎 万紀代	S52理修数
松本久美子		大西 香里	H06理数			
須磨区(47)	星野 美佳	中播・西播 姫路市、(神崎郡)神河町、市川町 福崎町(118)	村田 好子	S39家食		
	中村 真理子		高階 時子	S48文国		
垂水区(58)	出井 葉子	相生市、たつの市、赤穂市、宍粟市 (揖保郡)太子町(赤穂郡)上郡町 (佐用郡)佐用町(43)	塚崎 裕子	H11文欧米 H13博前語		
	武 佳美		石川 満子	H11文スポ		
西区(65)	細川 明子	但馬 豊岡市、養父市、朝来市 (美方郡)香美町、新温泉町(24)	山本 紀代美	H06家生		
	阪神南		佐藤 美子	丹波 丹波篠山市、丹波市(15)	小林 嘉子	S37家被
伊藤 恭代		三角 三紀子	S44理数			
久保 瑞代		淡路 洲本市、南あわじ市、淡路市(20)	奥田 敦子		S52文国 S54文修国	
高橋 みさよ	県内合計(会員数) 1242					
阪神北	池澤 直子	県外兵庫県支部希望+外国在住(会員数) 26				
	岡本 京子	兵庫県支部 所属会員 1268				
	伊丹市(34)	小川 桂子				
宝塚市(85)	屋島 亜矢子					
	中島 恵美子					
	久田 芳美					

◎ 編集後記 ◎

コロナ禍が依然続いておりますが、その中でも今年度は、総会をはじめ、各種の活動が対面で和やかに行われました。紙面からその様子が少しでも伝われば嬉しく思います。

原稿を寄せてくださった皆様、編集へのご教示をくださった役員の皆様に深く感謝申し上げます。

編集委員：神戸市須磨区 中村、星野